

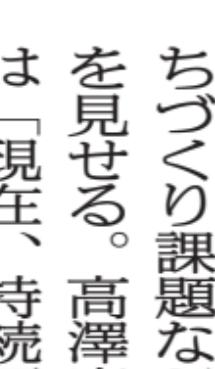


いる。「可能な軸」を近年、業のみのまわりに、これまでに組み」が、地

りの『プラット
ン』に力を注い
だらはエネルギー
多くの人と開
イデアや知識を
課題を解決する
作っていくこと

「いよいよついに『地域資源活用システム』が完成した」と喜んでいた高澤様。しかし、実際に運用を開始してみると、予想以上に多くの課題が浮上してしまった。地域資源を活用するためには、まずは資源の調査や分析が必要となるが、高澤様は「資源の調査は、なかなか手間がかかる」と嘆いていた。また、資源を活用するための具体的な方法や戦略についても、十分な知識や経験がないと実現するのが難しい。そこで、高澤様は地域資源活用システムを活用するための相談会を開催することにした。この相談会には、福井や新潟、岐阜、熊本など他県からの相談も増えていく。高澤様は、「地域の課題は大きささまざま。まずはそれぞれの土地の特色を見極めながら、プラットフォームをしっかりと確立させていくことが大事。その成功事例をもとに、若い人を図つ

地域課題を解決する仕事



にわたる支援を
国連が掲げる
開発目標（SDG）
とした取り組み
では個人商店や
ならず、地方自

つくりに尽力

「いきたい」と力を込める。

トフォ ついでい
福井や新潟、岐阜、熊本など他県からの相談も増えてい
ると言い、「地域の課題は大小さまざま。まずはそれぞれ
の土地の特色を見極めながら、プラットフォームをしつ
かりと確立させていくことが大事。その成功事例をもとに、
を図つ
北陸、富山県にもモデル展開させていければ」と話す。

省エネ推進に向けた施策説明会など
さまざまな講演活動も積極的に行う

昨年度からは、産学官連携の地域イベントや講演にも多く携わってきた。高澤代表理事は「昨今、他県では若い人たちによる省エネを意識したベンチャービジネスが多く生まれている。富山での傾向はまだ少なく、前向きに取り組むべき課題だと捉えている。環境省や大学などと相談しながら、まずは富山の学生たちに再生エネルギーについて興味を持つてもらいたい。後に、省エネがあらゆる問題を解決し、社会貢献、経済効果にもつながっていくことを知つてもらえば」と期待する。「今後は（動画サイトの）ユーチューブなどのツールを使いながら、広く分かりやすく発信・啓発していきたい」と意気込みを見せる。

地域資源循環システム協会